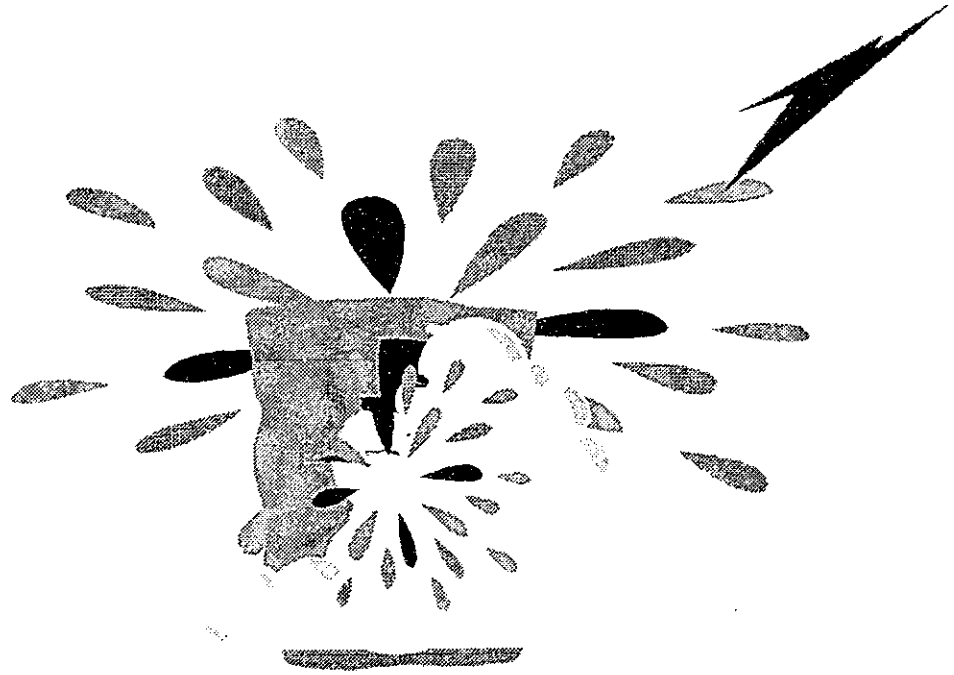


H S K なんれん <b>おとふけ</b>	昭和48年1月13日代3種郵便物認可 H S K通巻第341号 2000年8月10日 隔月10日発行(1部100円) 会費に含まれています。 編集 財団法人北海道難病連音更支部 発行 北海道身体障害者団体 定期刊行物協会 (H S K)
---------------------------	---

NO 47



- ☆ 全道集会 参加報告
- ☆ 難病検診・福祉相談会のお知らせ
- ☆ 福祉祭りのご案内
- ☆ 作業所だより
- ☆ 事務局だより
- ☆ どんぐりまつりのお知らせ

# 福祉まつりのご案内

日時――9月3日(日) 9:30~15:30

会場――音更町総合福祉センター

内容 9:30~11:00 映画上映 ハッピーバースデー

(命かがやく瞬間)

家庭崩壊、学級崩壊が語られる現代。映画はその現代に生きる少女の、悲しみから希望への再生の物語です。

11:15~12:00 音更バトントワラーズ

13:00~13:30 開会

13:30~14:00 ひょっとこ踊り

14:00~14:30 よさこいソーラン

14:30~15:00 よつ葉バンド・つばさバンド

15:00~15:30 お楽しみ抽選会

15:30 閉会

10:00~15:00 各施設・ボランティア等の展示即売、体験教室

(介護用品、福祉施設作品展示即売、健康相談、疑似体験、各種教室 その他)

11:00~13:00 昼食バザー (うどん・そば・おにぎり・おしるこ

ラーメン・みそおでん・カレー 他)

☆ 難病連音更支部では、例年通り、作業所のリサイクルバザー出店と、国会請願署

名行動をおこないます。協力をしていただける方は、事務局 31-8723に

ご連絡ください。

難病や難病と思われる病気でお悩みの方  
専門医の指導をご希望の方  
医療費や生活問題でお困りの方

2000年度(平成12年度)北海道委託事業

●共催/検診団

北海道大学医学部神経内科  
北海道大学医学部第二内科  
北海道大学医学部リハビリテーション医学講座  
社団法人北海道勤労者医療協会  
国立療養所札幌南病院  
北祐会神経内科病院  
北海道医療ソーシャルワーカー協会  
北海道帯広保健所  
音更町  
音更町国民健康保険診療所

●後援/北海道医師会

十勝医師会  
帯広市医師会

# 難病医療・ 福祉相談会 開催のお知らせ

と き / 9月3日(日)  
と ころ / 音更町保健センター  
受付時間 / 午前 9:00~12:00

**受診希望の方は予約が必要です。**

8月28日までに下記へ電話でお申し込み下さい。

申し込み先 音更町保健センター ☎0155-42-2712

帯広保健所保健指導課地域保健推進係 ☎0155-25-0864

内線 3671・3672・3674

## ●次のような症状でお困りの方はご利用下さい●

- ① 全身の関節が痛む、朝手足がぎこちなく動かしにくい、関節が腫れている。  
疲れやすい、微熱が続く、体重が減ってきた。  
手足の先が白くなってきたり、紫色になって、痛みがある。  
原因不明の発熱が続くことがある。  
足に紫色の斑点ができる、口の中や陰部に潰瘍ができる、急に視力が低下した。  
手足が異常に冷たくなる。等どれか症状のある方。
- ② 手足がふるえる、字が書けなくなった、食事がしにくい。手足に力が入らない、  
また、急に力が抜ける。ものを噛んだり、飲み込んだりしにくい、むせたり、  
のどにつかえたりする、転びやすい、手が上がらない、手足の筋肉がやせてきて、  
力が入らなくなった。口や舌がもつれる感じがする。  
顔の表情が乏しくなった。物が二重に見える、まぶたが上がらない。  
手足がしびれる、感覚がない、歩きにくい、等どれか症状のある方。
- ③ 障害年金、身体障害者手帳、医療費や生活問題等の専門の相談やリハビリの  
指導も行います。

難病や長期慢性・進行性の病気のご相談は、  
いつでもどうぞ  
私たちは難病・長期慢性の病気の患者・家族の  
団体の連合体です。

財団法人 北海道難病連

札幌市中央区南4条西10丁目 北海道難病センター

電話 011-512-3233 FAX 011-512-4807

月~金 午前10時~午後6時

## 第27回 難病患者、障害者と家族の

### 全道集会(はこだて)参加の記

集会は、8月5日、6日の両日函館市総合福祉センター(あいよる21)、函館市勤労者福祉センター(サン・リフレ)、教育大学函館校の三会場で行なわれました。

今年度の集会は、有珠山の噴火による交通障害や、道北、道東からは遠隔の地であるという厳しい事情があったにもかかわらず600余名が函館の地に参集しました。支部数にして21支部、部会数でいうと27部会、道外からの参加も5名ありました。

8月5日は、函館国際ホテルに約400名が参加して歓迎レセプションが行なわれました。アトラクションとして①よさこい「音舞(おんぶ)」②江差餅つきばやしなどが行なわれました。「音舞」は障害者地域共同作業所「海星」の通所者と職員を中心に結成され、16歳から69歳までの50名が活動しているということです。餅つきばやしは民族歌舞団「こぶし座」によるものでした。

8月6日は天候も回復し、午前9時から各会場に分かれて分科会を開催しました。分科会は各部会ごとに企画・運営するものですが、その内容は医療講演会を行なった部会が12、交流会が13部会などとなっていました。

昼食をはさんで12時30分から全体集会在、総合福祉センターの多目的ホールで開催されました。日程は例年とほぼ同様でしたが、今年は「日本一周激励マラソン」のランナー沢本さんと、サポートスタッフの佐藤さん阿部さんの3名の方に感謝状が贈られました。

体験発表ではパーキンソン病および膠原病と闘っている患者と家族お一人ずつの発表がありました。お二人とも、難病との出会いから、病気と闘う肉体的、精神的な苦痛、そしてそれらを克服していこうとする本人や家族の日々の努力の様子を話されていました。特に、パーキンソン病の患者の方が、日々心がけていることとして 1) 病気のことを忘れること 2) 自分の病気を隠さないことの二つを挙げ、もし、人に聞かれたら「私はパーキンソン病です。」と明るく答えることにしています。身体は病んでも心まで難病患者にはなりません。という発表は多くの人に感銘を与えました。

休憩後、基調報告、続いて集会アピールを採択して全体集会在終了しました。基調報告の中で全道集会開催の意義について再確認がなされました。全道集会は難病連が外に向かってメッセージを発信する絶好の機会となっていること、二つ目には、患者も外に出て楽しさに触れるとともに他の地域の人々との交流を深めることができるなどその意義は大きい。ぜひ皆さんで確認して欲しいとの呼びかけがありました。

#### ◎感想に代えて

☆音更支部からの参加は、大久保支部長と山田会計の二人だけでちょっとさびしい感じでしたが函館まで6時間近くもJRに揺られるとさすがにどっと疲れが出た次第です。

☆函館大会でも200余名のボランティアの方たちが活躍されていました。心から感謝を申し上げます。また、函館支部の皆さんが集会開催のために大変なご苦勞をされたことを伺いました。有珠山噴火のため開催そのものが危ぶまれたこと、会場や宿泊地の確保、オプションルツ

アの企画など多くの問題をクリアーされすばらしい集会となりました。厚くお礼を申し上げますと思います。

☆レセプション会場は函館国際ホテルの「天平」の間で行なわれました。函館一というだけあって広く立派なホールでした。レセプションは6時30分に開始されましたが、いろいろありまして会食が始まったのが7時20分過ぎとなり、遠路はるばる到着の音更勢はさすがにぐったり。

☆分科会会場は函館校でした。分科会への参加者は、やはり例年より少なかったわけですが反面話合いの時間が十分に確保できて交流も深まり、学生用の椅子の堅さも忘れるほどでした。

☆6日の夜は、湯の川温泉に一泊。オプションツアーとして函館山の夜景や五稜郭での野外劇が企画されていましたが、音更組は明日の日程を考えホテルで静養ということにしました。夕食の折に、各支部の共同作業所の様子が紹介されました。札幌、旭川、釧路と紹介が進み「音更支部は・・・」と紹介が始まったので、すかさず立とうとしたら「・・・（意味不明）」のまま紹介は中断となり、小小（中小よりも小さい）支部の悲哀を味わう結果となりました。

☆7日は8時過ぎにホテルを出発、函館駅前を一回りして帰宅の途につきました。全道集会の開催についてはいろいろと意見のあるところですが、同じ病気の方たちと話し合う機会は、大都市はともかく地方支部の中では非常に少ないのです。その意味で継続を希望する意見が多かったように思います。次年度は札幌で開催されます。支部からの助成もありますし、得るものは多くあると思いますので、多数の会員の方の参加を期待しています。

## 事務局だより

音更支部結成時より支部長として10年間にわたり活動され、音更支部を支えてくださった菅原 貞助さんの功績を讃え、入院中の病院を役員3人（大久保、宮内、穀内）で訪問し、支部より感謝状と記念品を贈呈し、労をねぎらいました。

## どんぐりまっりのお知らせ

10月15日（日）に決まりました。詳細は、近くなりましたら案内はがきを出します

# 作業所だより

無認可作業所に通所しませんか！（対象＝難病・障害者）

作業日は 水・金・土・日 13:00～16:00  
福祉の店は 土・日 10:00～14:00

## 作業の内容

一般の方より寄付していただいた品物の

- ①仕分け — 衣類、雑貨
- ②点検・修理 — おもちゃ、電化製品、自転車 他
- ③値札作り、雑貨に値札付け
- ④衣類のボタン取り、補修、ボタンの袋詰め
- ⑤バザー品の集荷
- ⑥店の売り子（衣類か雑貨）
- ⑦イベントバザーへの出店（青空市・福祉まつり他）
- ⑧その他

## 交通費の支給

水・金・土・日 13:00～16:00 1日500円  
土・日 10:00～14:00 1日1000円  
(他に昼食代300円)

現在は難病連音更支部の特別会計（リサイクルバザー収益）で運営しています  
近い将来、障害者地域共同作業所になることを目指して、運動を進めています

## 運営委員会の構成メンバー

鎌田真理子（大谷短大社会福祉科専任講師）  
井口洋司（音更リハビリテーションセンター）  
横田静子（緑ヶ丘病院）  
大野晴美（地域で一緒に暮らそう会）  
加茂昭司（身体障害者福祉協会音更分会）  
小川友子（視覚障害リハビリを広める会音更）  
宮内浩子（難病連音更支部）  
穀内律雄（〃）  
穀内さかえ（〃）

現在、月1回のペースで運営委員会を開催し、難病や障害者に関する施設  
や団体の理解をふかめるため話し合ったり、収集した各地の作業所の資料  
を参考にして、会則の検討をしている最中です。

作業所連絡先 TEL・FAX 31の8723

— HSK なんれん おとふけ —

編集人 (財)北海道難病連 音更支部 穀内 しかえ  
音更町

昭和48年1月13日第3種郵便物認可  
2000年8月10日発行 通巻341号  
発行人 北海道身体障害者団体定期刊行物協会 細川 久美子  
札幌市西区八軒8条東5丁目4-18

---